

お前の話はつまらん

神戸芸術工科大学 学長
松村 秀一
Shuichi Matsumura

AIに助けられる日々

旧知のアメリカの大学の研究者が、最近の欧州各国での「オフサイト建設(Off-site Construction)技術」に関する調査結果を、日本の友人たちと共有したいと提案してくださり、東京大学建築学専攻の権藤智之さんがオンライン講演の準備をしてくださった。たとえ地球の裏側にいたとしても、うまく時間を調整しさえすれば、実際に会っているかのようにライブでコミュニケーションできる。便利な時代である。

残念ながら私は時間が合わず、そのオンライン講演の録画データを

絞り出してみてもごく小さな手がかりしか得られないような過去の事柄を、すぐにこれでしようかと探し当てられる検索エンジン君の凄さには、感激させられることしばしばである。

先日、昔気に入っていた殺虫剤のテレビCMのことをうっすらと思い出し、「あれは一体どんなCMだったかな」と、ほんの少しの手がかりの言葉を検索エンジン君に伝えてみたところ、たちどころにズバリの映像が出てきた。

それは二〇年ほど前のテレビCMで、俳優の大滝秀治さんが演じる父親と岸部一徳さんが演じる息子が、寺の境内らしきところに並んで座り、父親の「キンチョールはどうして水性にしたんだ?」という問いかけに対して、息子が「それは、地球のことを考えて空気を…」と答え始めると、すぐに父親が「つまらん。お前の話はつまらん!」と一喝するというもので、ユーチューブ上では相当に人気のCM映像のようであった。検索エンジン君のおかげで、そうそう、これこれと、随分すつきりし

送ってもらったことにした。実際の講演が終わって何時間も経たないうちに、権藤さんからデータが送られてきた。しかも、その英語で行われた講演のテープ起こしの文字データを日本語に訳した十数頁の文書が添付されてきたのである。これには驚いた。

私のような時代遅れの爺さんと

は違い、読者の皆さんはとづくにご存じのことかもしれないが、英語を聞き取りテープ起こししたのも能力豊かなAI君であり、その英語の文章を和訳したのも達人なAI君なのである。その日本語の質は十分なものであった。しかも、権藤さんによれば、大したコストはかかっていないという。

時代遅れの爺さんとして、送られてきたメールに対して、その文意を読み取ったような返信の台詞が自動的に表示されるのを見て、時にそれをそのまま使うようになってしまっていたり、気付くといつの間にかAI君に助けられていてドキッとす

検索エンジンの刺激

筆者の場合、AI君の仲間のなかで一番お世話になっているのは検索エンジン君だろう。多くの皆さんもそうだと思う。特に、そもそも性能が悪いのか、或いはことのほか劣化が進行しているのか、自分の脳から

と考えられます。あなたはどのような変化が特に興味深いと思いますか?」と締め括った。

私は思わず大滝秀治さんの台詞を口走っていた。

「つまらん。お前の話はつまらん!」
今時、未来について考えたことのない人でも、日常的に目や耳にする情報から拾って、これくらいのキーワードは列挙できるだろう。優秀なはずのAI君の口から改めて聞かされる必要はなかったし、私には手垢にまみれたこれらのキーワードから、建設業の未来を明るくする変化の予感や希望を得られるとは到底思えない。もっと聞いたことも見たこともない話が聞きたかったし見たかった。

過去の様々な記録から題材を拾い、集め、まとめ上げることを得意とするAI君に、聞いたことも見たこともない話を期待するのは現段階では筋違いなのかもしれない。でも、丸々九年、全五四回にもなる本連載「希望を耕す」がノーマークだったらしきは、少々残念なことであつた。



大滝秀治さんと岸部一徳さんによるキンチョールのテレビCM(21世紀初頭)
(提供:大日本除虫菊株(KINCHO) 協力:ACC・CM情報センター)

建設業の未来を聞いてみた

たものである。

二カ月ほど前のこと。「建設業はどのように変わることができのでしょうか?」というテーマでの講演を頼まれた。そこで、最近のAI君の能力を見込んでその質問をそのまま伝えてみたところ、流石はAI君、瞬時に答えてきた。